

⑥ 6年生 | 「長く続いた戦争と人々の暮らし」

人口ピラミッドから戦争の影響を考える

○人口ピラミッド

社会科では特に高学年になると、資料を読み取る力が求められています。授業の中で、資料として人口ピラミッドを取り上げてみました。人口ピラミッドからは、少子化問題、^{ひのようま}丙午信仰など、さまざまなものが見えてきます。今回は1949（昭和24）年生まれから上にしぼって戦争の影響を見てみることにしました。子どもたちに人口ピラミッドを見せます。この年齢層のグラフでは年齢があがるにつれて下から上へと人口が少なくなるピラミッド型をしていることがわかります。注意深い子どもは2か所にくびれがあることに気づきます。くびれているということは、そこだけ前後に比べて人口が極端に少ないということです。

○気づいたことを調べてみる

ではなぜ、ここだけ人口が少ないのでしょうか。この年になにか特別なことがあったのでしょうか。上のくびれ①は1938、39（昭和13、14）年生まれの人口です。調べてみると、この前年の1937（昭和12）年に、いわゆる日中戦争がはじまったことがわ

かります。そのため翌年からは、中国への動員がはじまります。家族でくらす父親の数が減ったのだから、生まれてくる子どもの数が減ったのかもしれないということが見えてきます。

次に、下のくびれ②では何があったのでしょうか。ここは1945、46（昭和20、21）年生まれの人口です。調べてみると終戦にかかる年ということがわかります。多くの父親たちは中国をはじめ東南アジアに出征していました。また、国内も荒れ果てていて、安心して子どもを生き育てられるような環境ではなかったのであろうということが見えてきます。

今度は、80歳以上の男性と女性の数③を比べてみます。男性の数が少ないのはなぜでしょうか。男女の平均寿命が違うからという理由も考えられますが、80歳以上の男性というのは、終戦の時に14歳以上だった人なのです。当時は14歳から徴兵されました。つまり、戦争で命を落とした男性が多かったということも影響しているのです。人口ピラミッドというひとつの資料からも、戦争が及ぼした影響を読み取っていくことができます。

日本の55～90歳までの人口ピラミッド

